

【札幌市立発寒中学校】

＜本校男子＞

【実技の状況について】

- 握力（筋力）
→全国・札幌市の平均値からともに2kg程度下回っている。
- 上体起こし（筋パワー、筋持久力）
→全国平均値から3回以上下回っている。
- 長座体前屈（柔軟性）
→全国・札幌市の平均値よりも1～2cm上回っている。
- 反復横跳び（敏捷性）
→全国平均値には及ばないが札幌市の平均値は上回っている。
- 20mシャトルラン（全身持久力）
→全国・札幌市平均値を共に下回っている。
- 50m走（疾走能力）
→全国・札幌市平均値を共に下回っている。
- 立ち幅跳び（筋パワー、跳躍能力）
→全国平均値は下回っているが、札幌市平均値と同程度である。
- ハンドボール投げ（巧緻性、投球能力）
→全国平均値から2m程下回っている。

【児童生徒質問紙について】

- 運動・スポーツが好き、やや好き
→86.0%（全国平均 89.4%）
- 中学校卒業後、自主的に運動したい
→60.3%（全国平均 70.8%）
- 朝食を毎日必ず食べる
→74.8%（全国平均 81.6%）
- オリンピック・パラリンピックへの気持ち
 - ・運動に関心が高まってきた
→25.6%（全国平均 34.8%）
 - ・選手として出場してみたい
→7.8%（全国平均 16.3%）
 - ・試合を見に行ってみたい
→49.6%（全国平均 55.2%）
 - ・大会ボランティアをしてみたい
→4.7%（全国平均 11.4%）

＜本校女子＞

【実技の状況について】

- 握力（筋力）
→札幌市平均値とほぼ同程度である。
- 上体起こし（筋パワー、筋持久力）
→男子同様、全国平均値から3回以上下回っている。
- 長座体前屈（柔軟性）
→男子同様、全国・札幌市の平均値よりも1～2cm上回っている。
- 反復横跳び（敏捷性）
→全国・札幌市の平均値よりも上回っている。
- 20mシャトルラン（全身持久力）
→全国平均値よりは下回っているが札幌市平均値よりは5回以上上回っている。
- 50m走（疾走能力）
→全国平均値と同じタイム。
- 立ち幅跳び（筋パワー、跳躍能力）
→全国平均値には劣るが札幌市平均値より5cm上回っている。
- ハンドボール投げ（巧緻性、投球能力）
→札幌市平均値と同程度。

【児童生徒質問紙について】

- 運動・スポーツが好き、やや好き
→77.6%（全国平均 79.2%）
- 中学校卒業後、自主的に運動したい
→59.5%（全国平均 59.7%）
- 朝食を毎日必ず食べる
→79.1%（全国平均 78.2%）
- オリンピック・パラリンピックへの気持ち
 - ・運動に関心が高まってきた
→27.8%（全国平均 27.1%）
 - ・選手として出場してみたい
→7.8%（全国平均 6.9%）
 - ・試合を見に行ってみたい
→58.3%（全国平均 57.0%）
 - ・大会ボランティアをしてみたい
→14.8%（全国平均 18.3%）



今回の調査結果の傾向

【実技の状況について】

- 柔軟性について、男女ともに全国平均値を上回っており、授業で毎時間行っているストレッチングの効果が出ている。
- 女子について、運動に対する関心が高く、実技結果も柔軟性だけでなく、敏捷性、疾走能力など、全国平均値と同程度か、上回る種目が多かった。
- 課題として挙げられるのは
 - ・男子→握力（筋力）、上体起こし（筋持久力）、20mシャトルラン（全身持久力）、50m走（疾走能力）、ハンドボール投げ（巧緻性、投球能力）
 - ・女子→握力（筋力）、上体起こし（筋持久力）

【運動習慣等について】

- 「運動・スポーツが好き」「中学校卒業後、自主的に運動したい」と考える子どもの割合は、女子の方が高い値を示しており、意識の高さが伺える。
- 朝食の欠食日がある生徒は少なく、ここでも女子において望ましい生活習慣の定着が図られていることがわかる。
- オリンピック・パラリンピックへの気持ちでは、男女差がはっきり表れ、総合的にみると、運動への取り組み方や関心の違いが実技結果にも反映されていることがわかる。



改善の方向

- 運動が苦手な子どもも、意欲的に学ぶことができる指導を工夫することで、どの子どもも「運動することが楽しい」と実感できる授業の充実を目指す。
- 体育授業だけでなく、日常的に筋力や筋持久力を高める動きのある活動を取り入れる。
- 「さっぽろっ子『学び』のススメ」の活用等により、家庭と連携して、運動習慣・生活習慣・学習習慣を関連付けた取組の具現化を図っていく。